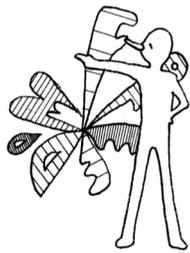


# Freedom



高校生の人権広報誌

## “Freedom” 第20号

2016年 1月11日発行

編集 “Freedom” (フリーダム) 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

毎月11日は「人権を確かめあう日」

東日本大震災、原発事故、豪雨等により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

今回は1・2学期と夏休みの活動紹介号です！西の京高校1年生有志の皆さん（GROUP FIVE）は、編集スタッフにも参加してくれています。香芝高校ハートフルクラブからは夏の合宿(!!)の報告。感想や投稿をお待ちしています。スタッフ希望者も引き続き募集中!!



## たんぽぽの家との交流

### 西の京高校1年 GROUP FIVE

#### ◆たんぽぽの家について

たんぽぽの家とは、障がいのあるなにかかわらず、誇りをもって生きていくことのできるコミュニケーションの実現をめざし、「アート」と「ケア」の視点からさまざまな事業を実施しておられる市民団体です。障がいのある人が自分を表現したり、特技をのびたり、それぞれの個性を生かしたりすることが出来る「アートセンターHANNA」、ダンスやコンサートなどに利用できる「シアターぽぽ」などいろいろな施設があります。西の京高校から徒歩二分で行ける福祉施設なので、私たちは年間を通してたんぽぽの家と交流しています。今回はその交流の一部を紹介させていただきます。(佃)

#### ◆五月 わたぼうし音楽祭 作詩作曲の部 選考会

わたぼうし音楽祭は、障がいのある人の詩にメロディーをつけて発表する、全国的にも有名な音楽祭です。私たちは、第四〇回わたぼうし音楽祭で発表される作品を選ぶため、五月三〇日、三十一日にたんぽぽの家で行われた選考会に参加しました。自分の抱えている障がいに対して前向きな姿勢などをそのままメロディにのせた作品もあり、心に深く響



き素敵でした。ただ言葉にするだけではなく、より鮮明に内容を伝える歌のすばらしさに気づかされました。(小林)

#### ◆六月① たんぽぽの家 春咲きバザール

私たちは六月六日、七日にたんぽぽの家で行われた「たんぽぽ春咲きバザール」のボランティアに参加しました。会場では地鶏やレインボーラムネなどの食品、古着などのリサイクル品、障がいのある人が作った革製のキーホルダーなどのグッズを販売しました。接客などとても楽しく、よい勉強になりました。販売の収益は、たんぽぽの家の活動に充てられるそうです。(高岡)



◆六月② たんぽぽの家 現地研修  
西の京高校地域創生コースの一年生は、毎年「地域学」という授業の現地研修でたんぽぽの家を訪問しています。今年も六月一九日に訪問しました。たんぽぽの家を利用する方々はさまざまな活動をされていて、作品を販売したり、デパートの展示会で展示したりするための制作活動が行われています。見学したときに、たんぽぽの家の職員の方と利用する方々はとても距離が近く、笑顔あふれる温かく素敵なお場だと感じました。また、たんぽぽの家の方

は、現地研修で訪問した私たちを、快く迎えてくださり、とても温かい気持ちになりました。(奥田)

#### ◆八月 第四〇回わたぼうし音楽祭

八月二日、私たちは今年で四〇周年を迎えたわたぼうし音楽祭で、受付や車いすで来場される方々を誘導するボランティアに参加しました。また、愛媛県の八つ鹿(やつしか)工房の人たちとともに『ここにいるから』という歌のコーラスにも参加させていただきました。これは、「僕たちがここに来る理由は、決して行く場所がないからじゃない」で始まる、仲間がいることのすばらしさや前向きに生きることの大切さを書いた詩に、明るく覚えやすいメロディをつけた曲で、歌っていて楽しくなれる作品でした。障がいがある人もない人も音楽を通じてつながっていきけることはいいことだと思います。(小西)

#### 奈良東養護学校のわくわく活動に参加して

私は、十一月七日、奈良東養護学校の体育館で行われた「わくわく活動」に参加しました。これは、養護学校の生徒さんと高校生がペアになり、レクリエーションをとおして交流するイベントです。

最初は、ペアになった養護学校の方が高校二年生と知り、先輩なので、何を話せばいいのかかわからずにとまどいました。でも、とてもおもしろ

い方で話していて楽しかったです。活動の中では、ダンスを踊りました。妖怪ウォッチの「ようかい体操第一」から始まり、全員で楽しく踊りました。また、そこにいた全員で手をつないで輪を作ったり、列車を作ったりと、いろんな人とふれあうことができました。いつもはあまり動いたりしないので、最後はくたくたになりました。

奈良東養護学校に通っている生徒の人たちは、私の中のイメージでは、会話などのコミュニケーションがとりにくいのかなと思っていました。でもそれは全然ちがっていて、いつもよりゆっくり話したりすれば会話することができ、私もペアの方とジャンニーズの話題で盛り上がりました。

この経験で、自分の先入観でまわりをみるのではなく、一度その世界にふれることも大事なんだということに気づくことができました。また、こういう機会があれば、ぜひ参加したいです。(西の京高校 小西 佑香)

### 高解研 夏期研修会 参加体験記

#### 高解研夏期研修会を終えて

私達は、七月二十六日(日)に神戸にある「南京町」と「人と防災未来センター」に研修に行きました。私は、どちらも過去に行ったことがありません。しかし、人権について

(二面に続く)

# 太鼓の町 愛荘町を訪問して

## 香芝高校ハートフルクラブ

私達ハートフルクラブは、7月27、28日に滋賀県に合宿に行きました。合宿では、同和問題（※）や人権問題に取り組んでいる愛荘（あいしょう）町の「山川原（やまがわら）地域総合センター」を訪れました。その町では、牛の皮を用いて太鼓作りが昔から行われており、今もその地域では2軒（県内でも2軒）のお店で太鼓作りが行われています。

まず、センターで町の概要とセンターの取り組み、山川原の歴史と太鼓作りについて説明を受けました。山川原では、昔から皮革（ひかく）産業で栄えていましたが、牛の皮を取り扱うなどの理由によって、当時から差別を受けることがあったと言っていました。2012年、2013年には、役所に「ある地域が同和地区かどうか」を尋ねる電話や近くの学校に差別的な落書きをする事件があった等、現在でも差別が残っていることを聞きました。そこで、それらに対する取り組みとして、愛荘町では、町民学習会を開催したり、企業などに人権問題の啓発を行ったりしています。また、センター運営委員会でも、大阪市の多民族共生人権教育センターに研修に行くなどさまざまな活動を行っていることを聞きました。

また、太鼓作りの話では、戦国時代頃には、すでに皮なめしが行われていて、それによって村が栄えましたが、上述したように差別が行われていたことや、皮なめしに必要な川の利用を巡って近隣の村とのトラブルがあったことなど、詳しく説明を受けました。



説明を受けた後に、町で2軒ある杉本太鼓商と正木太鼓店に見学に行くと太鼓作りの工程を見せてもらいました。私は、太鼓作りの歴史を聞く中で、この町は差別を受けながらも、太鼓作りや昔からの皮革産業の歴史に誇りを持っているんだなと感じました。



今回の合宿では、今まであまり関わってきたことのない同和問題について考えることができました。また、この問題は歴史が関わってくる複雑な問題で、簡単に解決するのは、難しいと思いました。しかし、同和問題は、偏見を持っている人にきちんと説明をすればきっと解決できるのではないかと思います。私は、この問題についてもっと正しい知識を持つことが大切だと思いました。（香芝高校 常盤健太）

※「同和問題」とは、部落差別に関わる問題（部落問題）のこと。戦後、行政用語などとして広く使われてきた。部落差別の起源については、さまざまな説があるが、近年では、人や動物が死んだときなどに生じる「ケガレ」という観念を、「キヨメ」る役割を担っていた人々を特別視し、しだいに差別するようになったという説が目立っている。今なお続いている、この差別をなくす取り組みが、地域社会や、学校などの人権教育の場を中心として行われている。



また、太鼓作りの話では、戦国時代頃には、すでに皮なめしが行われていて、それによって村が栄えましたが、上述したように差別が行われていたことや、皮なめしに必要な川の利用を巡って近隣の村とのトラブルがあったことなど、詳しく説明を受けました。



昼食の話に戻

（一面から続く）  
考え取り組んでいこうという強い意志を持っている仲間達と体験した時、感じることや学ぶこと、行動することが変わっていったのでした。

南京町に向かうバスの中、期待と不安で胸がいっぱいになっていた私ですが、気がつくともメンバーと楽しく話していました。年齢・性別に関係なく自由に話している参加者の姿を見て、とても良い人たちだと思いました。もちろん、先生方も熱心な方ばかりで、時には私達よりも楽しそうに話していました。

ると、炎天下でも楽しめるグルメもありました。ジェラートはとてもひんやりとしていて、おいしそうでした。また、室内で座って食べられる環境もあったので良かったです。私は、肉まんや唐揚げ、ゴマ団子を食べ楽しんでみました。皆どれを食べるか、必死になつて探し、歩き回りました。

地震によって破壊されるシーンは、心に残りました。阪神・淡路大震災の経験と教訓を未来に伝え、防災、減災社会を実現するために必要な知識を学ぶことができました。



語り部の方による震災時の体験談受講では、「ヒトの爪の伸びる速さでプレートは動かされている」などの知識をまじえ、地震について詳しく教えていただきました。また、「関西では地震がないという神話で安心していた。しかし、地震が起きて何がどうなったのか分からない。家が崩壊して空が見える。死ぬかと初めて思った。」と懸命に当時の様子を伝えていただきました。もし、私がある場面に出会うとどうなっていたらどうかと想像すると恐ろしかったです。そして、まわりにある情報はすべてが正しいとは限らないと気づくことができました。口コミやSNS等で情報を得るのではなく、自身が行動して調べるのがどれほど大事なのか学ぶことができました。

その後見学した館内では、展示や資料、映像や体験者の方からの話で、私達は災害に対する正しい知識を身につけることができました。

「人と防災未来センター」では、阪神・淡路大震災発生当時の人々の生活や様子などを具体的に知ることができ、これからどう生きるべきかと考えさせられました。

今日の学んだことを家族や友人に伝え、それと同時に本校でのハートフルクラブの活動も広められたらいいなあと感じました。（香芝高校 前川翔平）

目的の南京町に到着すると、各自昼食を楽しみました。南京町は、漢方薬から雑貨まで「なんでもそろそろ南京町」として観光スポットになっていて、予想通りたくさんさんの観光客でにぎわっていました。南京町公式ガイドブック『熱烈歓迎 南京町』には、「神戸港が世界へと扉を開いたとき、海側の居留地に隣接するこの場所に、中国の人たちが移り住み、人々のくらしを支えるマーケットを創った」と書いてありました。私はこの中の『中国人』という言葉で考えさせられました。現在日本と中国の国同士の関係は良いとは言いきれませんが、誰もが良くなってほしいと願っていると思うので、こうした南京町での交流等で少しでも良くなってほしいと感じました。

その後見学した館内では、展示や資料、映像や体験者の方からの話で、私達は災害に対する正しい知識を身につけることができました。

『一・一七シスター』では、「五時四十六分の衝撃」が心に響き続けました。阪神・淡路大震災の地震破壊のすさまじさを大型映像と音響で体感しました。最新型の技術を取り入れたシスターは、体中に伝わり、心臓の鼓動が絶えることなく、大きく聞こえたような気がしました。中でも高速道路が

その後見学した館内では、展示や資料、映像や体験者の方からの話で、私達は災害に対する正しい知識を身につけることができました。

高校生の人権広報誌  
“Freedom” 第20号 (2016年1月11日発行)  
発行 奈良県高等学校人権教育研究会  
〒630-8133 奈良市大安寺 1-23-1  
奈良県人権センター内  
TEL 0742 (62) 5555 FAX 0742 (62) 5568  
E-mail kodokyo@kcn.ne.jp  
HP http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/

※ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。

※本誌のバックナンバーは、高人数ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。（「高人数」で検索してください）

※本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託を受けています。